

課題名：バイオデザインメソッドによるアントレプレナー型若手医療機器研究者の開発サポート

代表機関／代表者：国立大学法人 東京大学 医学部附属病院／小野 稔

分担機関：国立大学法人 東京大学 医学部附属病院

研究期間：令和2年8月～令和7年3月

研究開発目的

医療機器イノベーション人材育成プログラム「バイオデザイン」のノウハウをベースに、東京大学が有する臨床・工学的知見と、開発サポート参加者の専門性とネットワークを核とした「教育プログラム」並びに「マッチングイベント」の提供を通じて、課題ドリブンの開発を進める能力を持つアントレプレナー型若手研究者を発掘する

取り組み

若手研究者が有するアイデア、シーズを医療機器の形に具現化し、持続可能な事業に繋げることを強く意識した上で、次の3点に注力した開発サポートを実践する

- ニーズ起点のマインドセットの構築
- 薬事許認可に関する支援体制の充実
- マッチングによる実践的な事業化支援

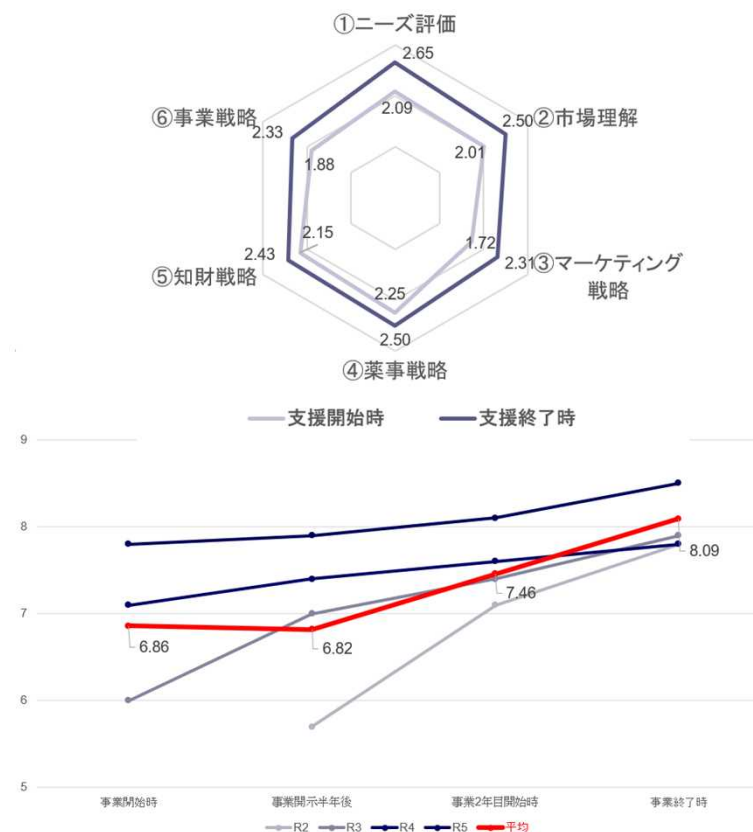
成果

- 教育プログラムの実施
ブートキャンプ式座学口座・ケースメソッド・エキスパートメンタリングの実施
- マッチングイベントの実施
メドテックサロン・メドテックマッチング・メドテックカンファレンス＆ピッチ)
- R2-R4年度採択研究者30名の内、助成金・補助金を獲得したものは22名、企業との共同研究費を受け取っているものは12名、起業し投資を受けたものは2名であり、事業継続者は86.7%であった。

今後の展開

- 当事業で得た研究者の事業化支援の手法等を用いながら、より医療機器開発SU支援あるいは中小企業向けの支援拡充を行っていく。

研究者作成資料に基づく客観的評価推移



開発サポートの効果測定のため、開発研究に対し外部機関による進捗評価を実施。支援前は研究者平均6.8点だったのに対し、支援後は8.1まで上昇した。